

令和6年度 真和中学・高等学校 学校評価

学校目標	「誠・信・望」の校訓のもとに「和」を重んずる豊かな人間性と、進んで「真」を追求する向学心と、社会に貢献しようという高い意欲を合わせ持つ生徒を育成する。				
具体的目標	○ 全教科・全領域で報恩感謝の心を育てる。		○ 言行に品位・品格が発露する態度を養う。		
	○ 基礎・基本の充実、自調・自考による真（深）の学力を培う。		○ 健全な身体・心の育成を図る。		
	○ 人への礼譲・勤労の智慧に通じる掃除の徳を体得する。		○ 登下校時の四恩塔一礼を定着させる。		
学校経営	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
	①募集・広報活動の充実（生徒数確保） ②中高一貫校としての教育課程の確立（6年間を見通した教育活動の計画と探究活動内容の検討） ③学力向上の取組/生徒の希望の具現化 ④教師の指導力向上のための職員研修の充実 ⑤場面に応じたICT教育の実践 ⑥地域貢献と体験活動の充実	①学校職員全体の、生徒募集についての意識向上・塾訪問、小学校・中学校との連携、広報の手段を広範囲に考え実践する ②6年間を見通した行動計画の整理 ③スタディサプリ・クラッシー等の導入と、成果と検証・学力分析の実施 ④外部の先進校視察研修への派遣 ⑤担任へのパソコン配付と授業及び校務への日常的な活用 ⑥地域と連携したボランティア活動の実施	B	①各塾訪問担当者が責任をもって数回各塾へ足を運び広報活動を行った。また、医歯薬同窓会へのポスター配付を実施した。進路変更の生徒の転校先への訪問も行い、公立中学校との連携を図った。 ②学校教育目標達成のために学年主任を中心に行動計画の整理は完成した。 ③進路部を中心に模試分析会が行われ、全職員で検証し、次の模試へ向けての共通理解を図った。スタディサプリ・クラッシー導入による教育成果は向上している。 ④若手教師を中心に各方面への研修会へ派遣するとともに、研修成果発表を職員研修にて行った。 ⑤担任へのPC配付により、朝礼連絡等ペーパーレス化が昨年度よりさらに図られた。教科指導へも日常的に使用されている。 ⑥ボランティア部を中心にレオクラブや地域公民館との連携による地域貢献活動を実施した。	①志願者数の増加のために現状の把握を年度末に実施する。入学生の本校志願理由の調査を行う。 ②魅力ある6ヶ年を通した教育活動計画になりえていくかの検証をする。 ③年度末に教科主任を中心に全学年の学力分析と対策について考察を行い対策を考える。 ④次年度の研修計画を研修担当により立案 ⑤校務・授業におけるPCの積極的活用 ⑥年間計画による日常的な地域貢献活動の実施。
校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
① 総務部	①校務分掌や各学年との連携を深め迅速適正な処理を行い年度末や年度当初の企画立案をする ②年間行事や入学式、卒業式等の企画立案をする ③教具、用度品の購入管理、消耗品の管理について無駄をなくし効率的に使用する ④育友会総会、役員会の企画立案し、保護者との連携、調整に努める ⑤学校要覧、真和通信、育友会だよりの編集、管理を行う ⑥全職員との共通理解のもとに教育計画の充実と達成に努力する	①年度当初計画を2月中旬を目途に行う ②年間行事についてはgoogleカレンダーを用いて、利便性を向上させる。 ③専門の事務職員が職員室で適時、消耗品の補充を行う。 ④保護者と連携しながら効率の良い方法を模索し、より充実した行事を行う ⑤真和通信を学校活動の様子等を報告する新聞を発行。 ⑥教務部と連携し講演会や芸術鑑賞などを企画	A	①4月当初の計画をたてた。新年度や入学式の準備などを行った。 ②教務部と協力し、googleカレンダーによる調整を行った。 ③職員室常駐の事務員により、消耗品の補充が行われ、教員の作業が円滑であった。 ④育友会の会議では保護者役員が非常に協力的で自主的に計画しているため、円滑な活動が行われた。 ⑤今年度の真和通信は原稿の提出が遅れたため、発行が少し遅くなった。 ⑥今年度は浄土宗開宗850年記念の音楽法要があり、生徒代表4名は知恩院へ派遣され、他の生徒はリモートで参加した。	○令和7年度の行事予定をgoogleカレンダーに各部署から記入する。 ○職員室での消耗品の補充は非常に円滑であるが、教員が使用したあとの印刷用紙などの扱い方が課題である。 ○生徒が行事を通して、感性を磨いたり、様々な興味を引き出せるような企画をする。 ○入学式や卒業式などの式典を無事に行えるように細心の注意を払う。
② 教務部	①全教科中高一貫教育プログラムの確立 ②中学進級規定の見直し ③総合学習・総合探究の大学入試との連携 ④授業力向上 ⑤週テストの効率化 ⑥勤怠管理システムの導入による朝礼連絡の簡素化・自習の管理 ⑦スタサプの活用	①全教科から一貫プログラムの提出 ②欠点教科数の増減や追試導入などの検討 ③検討委員会を開く、先進他校の視察 ④生徒アンケートの実施、授業見学の常態化 ⑤目的意識の明確化、先進他校の視察 ⑥事務局と連携 ⑦模試、定期考査、実力考査への活用、課題の設定	B	①教科の特性ということで一部の教科は一貫カリキュラムの導入を行うことがない ②検討会を行っていない ③関東の先進校の視察を行い、知見を得た ④実施していない ⑤全学年円滑に実施できたが、改善点もあった ⑥事務局が導入 ⑦できていない	①教務からではなく学校全体の方針として一貫カリキュラムを整備するべきであると教科へきちんと伝え、未実施の教科へ実施させるようにして欲しい ②検討会を開く ③もっと若手の先生達も巻き込んで多方向へ視察に行く ④実施する ⑤より効率的な実施方法（デジタル化や採点業務の効率化）を目指す ⑦活用委員会を開きたい

校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
③ 生徒指導部	①いじめの早期発見・早期指導 （毎月一回のいじめアンケート） ②SNS利用のマナー ③挨拶の励行 ④自転車通学のマナー （イヤホン、ながら運転等がないように） ⑤服装・身だしなみの徹底 ⑥自転車通学生のヘルメット着用を薦める ⑦自転車安全利用モデル校としての取り組みを進める	①いじめアンケートの毎月実施による早期発見 ②学年集会での専門家による情報モラル授業の実施 ③正門での四恩塔一礼の徹底、気持ちの良い挨拶の実施 ④登校下校時、左側通行及び交差点での安全確認の強化下校の際、全員正門から左側への下校の徹底イヤホン等の着用がないように徹底市生連の交通巡視、一般巡視の機会も活用していく ⑤職員室等の入室時や各クラス、各授業担当者で、該当生徒への指導を行う ⑥熊本市、中央署との連携を図り、生徒に促していく ⑦熊本市、中央署との連携を図り、交通安全について講演会を実施	B	①毎月一回のいじめアンケートの中で、入力してくれた生徒には早期に声かけなどを行った。 ②各クラスや学年で定期的な呼びかけや学年での情報教育を実施できた。 ③正門での四恩塔一礼は登校時は良くてきていた。廊下での挨拶は良好であった。授業時の挨拶はクラスによって差があるのが現状である。 ④下校時に正門から右側通行で出ていく生徒が増加した。次年度への課題である。また、市生連の交通巡視の際、生徒指導部全員で日常を確認し、指導することができた。 ⑤生徒によって差があるのが現状である。男子のシャツ出し、ネクタイやリボンの緩み、第一ボタン外れの生徒がおり、先生方への呼びかけももっと必要と感じた。 ⑥自転車安全利用モデル校としてヘルメット着用率が前年度に比べ、向上した。 ⑦長江様による交通講和、標語、ポスター作成が行った。	①生徒の些細な変化にも気づくように、実施後の先生方への呼びかけを強化する。 ②全学年において実施すべきである。 ③職員への呼びかけの頻度を上げる。登下校時に生徒指導部で正門に立つことが必要。 ④年度当初から常に呼びかけ、下校時に生徒指導部で立つことが必要。 ⑤朝のスタート時からの徹底を各担任に細かく呼びかけ、各集会ごとに生徒への呼びかけを継続して行う。 ⑥継続して自転車安全利用モデル校に立候補し、取り組みの機会を増やし、今年以上に着用率を上げる。 ⑦⑥と同様。
④ 進路指導部	①中高一貫教育の中での進学指導・進路指導 ②新大学入試に関する情報共有とその対策 ③多様化する大学入試への対応 ④総合型選抜、学校推薦型選抜入試受験生対応 ⑤大学入学試験問題・模擬試験問題、入試結果等のデータのデジタル化およびその保存システムの確立	①実社会で活躍している社会人や真和の先輩方から大学や職業に関する話を聞く機会を設ける高校生対象の講演会でも中学生の参加も募る ②新大学入試に関する情報について共有フォルダーにて情報共有を行う高校Ⅰ・Ⅱ年の担任・副担任は予備校や教育業者の説明会に積極的に参加する ③生徒各々受験希望の大学の出願要件を早くから調べ、高校Ⅰ年から意識して行動させる。小論文・面接指導など先生方の指導力向上を計画する ④総合型選抜、学校推薦型選抜入試受験生への個別対応可能な組織作り ⑤学校内共有フォルダ「模試」のデータ充実と活用 進路関係データについては、進路室のパソコン内に一括管理する	B	①7月熊本大学医学部講演会、8月東大特別講義、12月夢リレーリターンズとして大学4年生との交流会、慶応大学高道先生の講演会等、全学年対象に様々な講演会を実施することができた ②Public進路フォルダーを活用して情報共有が積極的に行えた11月北予備連絡協議会には多くの先生が参加新大学入試の情報を得るとともに教科指導法も学んだ ③各クラスのホームルーム等の時間に自ら大学について調べる時間を取ったまた、二者面談を積極的に行って大学入試についての意識付けができた ④小論文・面接・集団討論等の指導について、昨年度同様個別対応が実施できた。 ⑤模試データの共有フォルダーへの保存が徹底された推薦入試の問題データは積極的に予備校からいただき、本校の受験希望者が多い大学の入試問題の保存に努めた。	①中高一貫6カ年教育の中での進学指導・進路指導カリキュラムの構築 ②中等部・高等部の進路指導面での連携 実施する模試の選定および模試実施前後の対策・復習の定着 ③新課程入試に関する情報共有とその対策 ④「総合型選抜」「学校推薦型選抜」、そして更に増加している大学独自入試への個別対応
⑤ 保健体育部	①健康意識の向上 ②基本的生活習慣の確立 ③安心安全な教育環境 ④感染症対策	①保健講話・検診の実施により意識の向上を図るとともに、保健だよりを配布する ②中学生はフォーサイトの活用と担任指導、また保健の授業による教科指導、高校生はHRでの担任指導と保健の授業による教科指導を実施 ③保健委員による水質検査や健康カード、各学期における施設設備の点検、美化委員による環境美化活動の実施 ④情報収集、換気、咳エチケットの声掛けを実施	B	①計画通りに実施することができた ②担任指導・教科指導共にほぼ実施できたが、睡眠時間や体調管理の面では課題のある生徒が見られた ③委員会活動においては、計画通りに、意識的に活動できた。各学期の施設設備の点検も実施した。 ④情報収集・換気等については、積極的にでき、生徒の感染数は抑えることができたが、3学期に職員インフル感染者が多く出てしまった。	②HRや保健授業にて、学習時間と睡眠時間のバランスについて指導、声かけを行う ④感染症に対する職員の意識向上

校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
⑥ 募集入試対策部	①中学・高校入試及びWEB出願の更なる改善 ②受験者数の増加	①中学校奨学生・専願生入試の改革及びWEB出願の定着を受け、入試結果通知や入学手続きについても更なる改善に取り組んだ。 ②－１ 今年度より、受験会場として天草会場を中学受験高校受験共に増開設する ②－２ 県内の医歯薬関係の卒業生に対して、入試情報の通知を行う。 ②－３ 熊本市及びその周辺の塾、並びに天草地区の塾に対して運営委員の教師を中心に受験者拡大のお願いを実施する。	A	①中学校奨学生制度では複数年継続のS,A,B奨学生が定着し魅力ある奨学制度となっている。専願生試験では質問事項を改善し、より有意義な面接試験となった。天草会場受験では中高ともスムーズ実施することができた。また、入試結果通知や入学手続きについてもWEB手続きを採用し、入試事務の軽減につながった。 ②－１受験会場を天草にも開設した。微増ではあったが、中高校ともに受験者がいたので、今後も継続したい ②－２通知を行うことができた。効果や反響について調査をすることも考えたい。 ②－３運営委員の先生方にご足労いただき、各塾を回ることができた。	①次年度入試でもWEB手続きのシステムせっていについてミスがないか複数名で確認することで正確に設定し、スムーズな運用を図る。また、中学入学試験の英語の導入については、実施に向けて十分に検討する。 ②－１次年度以降も更なる増加をめざして、実施継続していきたい。その際、天草市（旧本渡市）の学習塾との連携もさらにはかかっていきたい。 ②－２次年度も同窓会と連携を図りながら粘り強く実施していきたい。 2－③次年度も連携をはかかっていきたい。
⑦ 事務局	①校納金の受納事務を的確に行い、滞納等がないようにする。 ②就学支援金申請について適正かつ円滑な事務処理を行う。	①毎月、滞納者をリストアップし、滞納者へ直接督促するとともに、担任・学年主任からも督促するよう依頼する。 ②オンライン申請のマニュアル、手順書を作成し、申請者全員に配布するとともに、各申請者の個別の課題に懇切に対応する。	A	①長期滞納者減につなげた。 実績）滞納件数 令和５年度　１件 令和６年度　０件　＊R7.2月時点 ②対象者全員が漏れなく、又問題なく申請でき、適正かつ円滑な事務処理を行った。 実績）オンライン申請　３１９件	①②引き続き実施

4段階評価	A：大いに改善あり　B：だいたい改善あり
	C：やや改善なし　D：全く改善なし